

こ 子どもも おとなも しあわせな まちづくり
こ けんりじょうやく
子どもの権利条約フォーラム2011
ひろしま
in 広島

報告書



2011年11月12日(土)・13日(日)
平和記念資料館メモリアルホール、広島市まちづくり市民交流プラザ、広島YMCA



こ けんりじょうやく
「子どもの権利条約フォーラム 2011in広島」
ひろしま
実行委員会



— 目 次 —

はじめに	1
第1章 活動概要	2
1. 目的	2
2. 内容	3
第2章 活動結果	5
1. オープニング	5
2. 子どもの権利条約バースデー・パレード	6
3. 子ども交流会	7
4. おとな交流会	8
5. 全体会	8
第3章 分科会内容	9
A分科会	10
B分科会	18
C分科会	29
フォーラム特別企画	39
おわりに	41
参考資料	
1. 実行委員会メンバー一覧・後援団体	参考- 1
2. 実行委員会規約	参考- 2
3. 会計	参考- 2
4. 広報	参考- 3
5. アンケート集計結果	参考- 4
6. 基調講演関連資料（オープニング）	参考- 6
7. 本フォーラムに関する新聞記事等	参考- 18

はじめに

子どもの権利条約フォーラム 2011 in 広島
ひろしま
実行委員長 渡部 朋子

2012年、新しい年が始まりました。昨年の「子どもの権利条約フォーラム 2011 in 広島」を振り返り、子ども達が子ども時代を子どもらしく生き、「子どもも おとなも しあわせな まちづくり」を目指すために、私たちが今後どう行動していけばよいかという指針の1つになればと、フォーラムの報告書を作成いたしました。お読みいただければ幸甚です。

広島大会は2011年11月12・13日の両日でのべ約1200人のフォーラムへの参画があり、30の分科会と2つの交流会、そして2つのヒロシマ特別企画を実施できました。これは、あらゆる場面でご協力・ご支援いただいた多くの皆さまのおかげであると心より厚く御礼申し上げます。特に遠方よりバスをつらね新幹線を乗り継いで、多くの子どもたちの参加があったことはとても嬉しくありがたいことでした。また、広島大会を通じて「子どもの権利条約フォーラム」を初回から続けてこられた皆さまのこれまでの積み重ねの力も実感させていただきました。今年度の愛知でのフォーラムも大いに期待しております。

つぎに私自身の振り返りをお話させていただこうと思います。広島での子どもの権利条約フォーラムは、残念ながら「子どもの権利」に関する理解と支援が数多在る状況の中で開催されたものではありませんでした。これは日本社会における子どもの状況をうつしだしているとも言えると思います。その中でフォーラムを開催することは、この状況へのチャレンジでもあり、子どもに関わる人、団体のつながりが再構築され強化されることへのチャレンジでもあったと思います。

私が今大会で非常に強いインパクトをうけたのは「子どもの力」の素晴らしさです。オープニングや交流会・分科会での子どもたちの堂々としたパフォーマンスや意見表明に感動しましたし、「ヒロシマ」を理解しようとする姿勢の真摯さに心搖さざられました。この「子どものもつ力」を子ども自身が表現できる場をどのようにどの位つくっていくのかが、「子ども参画」を考える鍵であると思います。広島大会でも準備の段階から子ども参画についての議論がありました。この先もっと議論を深め、実践の繰り返しが必要であると考えています。

残念ながら「子どもの権利条約」に関する学習やその活用といった取り組みは、現場ではほとんどありません。が、オープニングで富山からの子どもたちの経験として、「子どもの権利条約」についての教室での学びによっていじめがなくなったという発表がありました。「子どもの権利条約」を子どもに関わる現場でどんどん活用し、その成果発表を通じて逆に「子どもの権利」についての理解をすすめるというアプローチも大切であると思いました。

今大会を通じて、子どもに関わる多様な人・団体との出会いがありました。少なくともこんなに色々な方たちが子どもに関わる地道な取り組みに汗を流しておられるという共通認識は生まれたと思いますが、フォーラム実施のための何回かの実行委員会の中だけでは充分につながりあえたとはいえない感じています。これからどう協働していくのかが今後の課題です。フォーラムは終わりましたが、“終わりは始まりである”と私は考えています。フォーラムを通して見えてきたものとこれからどう取り組んでいくのか、各々の場所で1人1人の実践が問われています。

「復興元年」といわれる今年ですが、東日本大震災の被災地での子どもたちの置かれている状況も「子どもの権利条約」を1つの指針として見ていくば、その実態がより明らかになるように思います。広島大会で目指した「子どもも おとなも しあわせな まちづくり」そのものが、復興のプロセスの中で子どもたちの参画とともに実現することを願ってやみませんし、そのための努力も私たちに課せられていると思います。

第1章 活動概要

1. 目的

1.1 子どもの権利条約フォーラムの目的

子どもの権利条約フォーラムは、子どもの権利の普及や子ども支援をすすめるNGO、NPO、各種団体、市民、自治体などの交流の場として、毎年開催されており、広島での開催が19回目となる。

	名称	年月日	開催地
第1回	子どもの権利条約フォーラム'93	1993年11月20日(土)・21日(日)	東京都(千代田区)
第2回	子どもの権利条約フォーラム'94	1994年11月5日(土)・6日(日)	東京都(渋谷区)
第3回	子どもの権利条約フォーラム'95	1995年11月18日(土)・19日(日)	東京都(渋谷区)
第4回	子どもの権利条約フォーラム'96	1996年11月9日(土)・10日(日)	大阪府(大阪市)
第5回	子どもの権利条約フォーラム'97 in 神奈川	1997年11月2日(日)・3日(月・祝)	神奈川県(川崎市)
第6回	子どもの権利条約フォーラム'98 in ふくおか	1998年11月14日(土)・15日(日)	福岡県(春日市)
第7回	子どもの権利条約フォーラム'99	1999年11月27日(土)・28日(日)	東京都(渋谷区)
第8回	子どもの権利条約フォーラム2000 in 群馬	2000年11月25日(土)・26日(日)	群馬県(高崎市)
第9回	子どもの権利条約フォーラム2001 in あおもり	2001年11月24日(土)・25日(日)	青森県(青森市)
第10回	子どもの権利条約フォーラム2002 in ちば	2002年12月7日(土)・8日(日)	千葉県(千葉市)
第11回	子どもの権利条約フォーラム2003 in かわにし	2003年12月6日(土)・7日(日)	兵庫県(川西市)
第12回	子どもの権利条約フォーラム2004 in いばらき in 取手	2004年11月20日(土)・21日(日)	茨城県(取手市)
第13回	子どもの権利条約フォーラム2005 in しが	2005年12月3日(土)・4日(日)	滋賀県(近江八幡市)
第14回	子どもの権利条約フォーラム2006 in くまもと	2006年11月11日(土)・12日(日)	熊本県(熊本市)
第15回	子ども権利条約フォーラム2007 in ながの	2007年11月17日(土)・18日(日)	長野県(諏訪市)
第16回	子ども権利条約フォーラム2008 in みえ	2008年11月23日(日)・24日(月・祝)	三重県(津市)
第17回	子どもの権利条約フォーラム2009 in とやま	2009年11月14日(土)・15日(日)	富山県(富山市)
第18回	子どもの権利条約フォーラム2010 in みやぎ	2010年11月13日(土)・14日(日)	宮城県(仙台市)
第19回	子どもの権利条約フォーラム2011 in 広島	2011年11月12日(土)・13日(日)	広島県(広島市)

▲子どもの権利条約フォーラム開催地一覧

子どもの権利条約フォーラムの目的はつぎのとおりである。

- (1)子どもの権利条約に関連した実践的交流
- (2)子ども同士・子どもとおとなとの交流・パートナーシップ関係づくり
- (3)行政との建設的な対話
- (4)子どもの権利実現についての市民レベルでの検証
- (5)子どもの権利条約の普及・広報

中国地方では初となる、広島での開催テーマは、「子どもも おとなも しあわせな まちづくり」である。そのテーマに込められた意味は、すべての子どもたちが、かけがえのない子ども時代を安心して過ごし、未来に夢を持てるような「しあわせなまち」について、大人と子どもが一緒に考えるというものである。

1.2 子どもの権利条約とは

子どもの権利条約とは、1989年に国連総会で採択された、子どもについての人権条約である。主な子どもの権利として①生きる権利、②育つ権利、③守られる権利、④参加する権利等があり、これらのさまざまな子どもの権利の実現のために、行うべき施策を具体的に定めている。

2. 内容

2.1 「子どもの権利条約フォーラム2011 in 広島」のあしあと

2011. 4. 17 (日) 第1回実行委員会&交流会
 4. 27 (水) 第1回事務局会議
 5. 5 (木) 第2回事務局会議
 5. 17 (火) 第2回実行委員会
 5. 31 (火) 第3回事務局会議
 広島県こども夢基金に助成を申請
 6. 8 (水) 広島弁護士会が「後援」を決定！
 6. 16 (木) 第3回実行委員会
 6. 29 (水) 第4回事務局会議
 7. 6 (水) 第5回事務局会議
 7. 7 (木) 広島県こども夢基金助成事業として決定
 7. 15 (金) 第4回実行委員会
 7. 31 (日) 分科会申込締切 21の分科会に
 8. 3 (水) 第6回事務局会議
 8. 20 (土) 第5回実行委員会
 9. 4 (日) 第7回事務局会議
 9. 11 (日) 東日本大震災から半年
 フォーラム要項発表・申し込み受付開始
 9. 17 (土) プレ企画第2弾「被災地と被爆地～子どもとおとの学び合い～」
 第6回実行委員会 交流会
 9. 22 (木) 200近い個人・団体へ、要項、ニュースを発送
 9. 25 (日) 第8回事務局会議
 9. 26 (月) 後援団体に、パンフレット掲載メッセージ依頼
 9. 27 (火) 県公安委員会からパレードの許可
 10. 2 (日) 踏査役員会
 10. 3 (月) 広島県こども夢基金へ報告書を提出
 10. 5 (水) 分科会担当の方々へ、要項、ニュースを発送
 30番目の分科会の決定
 10. 6 (木) 第7回実行委員会
 10. 15 (土) パンフレット原稿締め切り
 10. 19 (水) 第9回事務局会議
 10. 21 (金) 第8回実行委員会
 10. 25 (火) 参加申込締切
 10. 31 (月) 第10回事務局会議
 11. 4 (金) 第9回実行委員会
 11. 9 (水) フォーラム直前準備作業
 11. 11 (金) ヒロシマ特別企画Ⅰ シンポジウム「子どもたちの未来を考える」
 11. 12 (土) フォーラム1日目
 オープニング
 子どもの権利条約バースデー・パレード2011
 分科会A
 子ども交流会
 おとな交流会
 11. 13 (日) ヒロシマ特別企画Ⅱ 「ヒロシマ」ミニツアー
 フォーラム2日目
 分科会B
 分科会C
 全体会
 12. 9 (金) 第10回実行委員会
 12. 10 (土) 会計監査終了



2.2 フォーラムの内容

(1) ヒロシマ特別企画 I

フォーラム前夜祭として、子どもたちの未来を考える「震災・原発そして復興」と題して開催された。

(2) オープニング

「I PLAY」の子どもたちによるパフォーマンスや、木下勇氏による基調講演、子どもたちによる意見表明および意見交換が行われた。

(3) 子どもの権利条約バースデー・パレード

子どもの権利条約は1989年11月20日に国連総会で採択され誕生した。フォーラム開催日が11月12日ということもあり、子どもの権利条約のバースデーを祝って、パレードを行った。

(4) 分科会A

「はだしのゲンが見たヒロシマ」「不登校の子どもの思い」「東日本大震災と子どもたち」「聞く」から「聴く」へ～お父さん・お母さんのための傾聴講座」「インクルージョンって、ほんとはどういうこと?～特別でない特別支援教育」「子ども参加のまちづくり～子どもの参画の進め方の様々なアプローチ」「施設で暮らす子どもの権利」「碑フィールドワーク」計8の分科会が催された。

(5) 子ども交流会・おとな交流会

子ども交流会では、自己紹介ワークショップや出身地の自慢を発表するなどの交流があった。おとな交流会では、広島アンデルセンで、「被爆建物としての広島アンデルセン」の話を聴きながら、歴代の実行委員長を務めた方々をはじめ、さまざまな参加者による交流が生まれた。

(6) ヒロシマ特別企画 II

広島平和記念資料館見学をした後、被爆者の体験を聞き、平和記念公園めぐりを体験する「ヒロシマミニツアー」が開催された。

(7) 分科会B

「子どもに対する暴力の現状と課題」「私達が経験した不登校～子ども中心の映画上映～」「子どももおとなも、みんなで感じよう!<子どもの権利条約ワークショップ>世界がもし100人の村だったら～ひろしま編～」「子どもの権利条約第31条「権利としての遊び」の実現に向けて～国連子どもの権利委員会による「一般的意見」への提言を考える」「子どもを暴力から守るために おとなためのCAPワークショップ」「勇気づけ育児：アドラー心理学のすすめ」「子どもとケータイ」「子どもといっしょにつくるまち」「親子で遊びの広場」「親子でアート展」「絵本の世界へいらっしゃい!」「親子でサイクリング」計12の分科会が催された。

(8) 分科会C

「子どもの権利条約新議定書」「アジアの子どもと子どもの権利」「子どもシェルター」「カクハイキのない未来は可能?」「昔ばなしと子どもの権利」「ヒロシマで考える子どもの権利と原子力」「お金の心配をせずに学べる世の中に」「生まれようとするいのち～出生前診断を考える～」「世界の子どものために日本の子どもが出来ること」「里親家族への支援について 今日求められている実践課題を中心に」計10の分科会が催された。

(9) 全体会

実行委員長の挨拶、事務局より参加者数等の報告、各分科会の報告など、2日間振り返り、意見・感想を交えながら、次回開催地の愛知県へのエールとともに、幕を閉じた。

第2章 活動結果

1. オープニング

1.1 ミュージカル「I PLAY」

実行委員長による開会宣言よりも早く、広島の子どもたちによるミュージカル「I PLAY」が公演された。「I PLAY」は、広島市民14万人のいのちを一瞬に失わせた被爆の経験を、ミュージカルとして仕上げた平和創作劇である。子どもたちの元気いっぱいな姿で、会場の空気が一気に温まった。



1.2 基調講演「子どもも おとなも しあわせな まちづくり」木下勇教授（千葉大学）

続いて、千葉大学教授・木下勇氏により、本フォーラムのテーマである「子どもも おとなも しあわせな まちづくり」と題した基調講演が行われた。木下教授は、都市計画、まちづくり、緑地環境管理学を専門としており、UNESCO Growing Up In Cities の日本コーディネーターでもある。住民参加、子ども参画のまちづくりの視点から、海外の事例を交えつつ、「ヒア・バイ・ライト 子どもの声を聞き 老人から子どもへ 世代をつなぎ 幸せを身近なところに実現する まちづくりをみんなで」(ひ・ろ・し・ま)と訴えかけた。(詳細な講演内容は参考資料を参照)



1.3 子どもたちによる意見表明

基調講演に続いて、木下教授によるファシリテートのもと、全国の子どもたちによる意見表明が行われた。富山の子どもたち、川崎の子どもたち、東京シユーレの子どもたち、川西の子どもたち、そして広島の子どもたちが、それぞれ舞台に立ち、想いを語った。

川西の子どもたちは、「ムッピーの人権紙芝居2」と題した紙芝居を行った。広島からは、中国新聞「ひろしま国」ジュニアライターの岩寄つかささんが発表を行った。



2. 子どもの権利条約バースデー・パレード

2.1 テーマおよびねらい

子どもの権利条約ができたのは1989年11月20日。その日を記念して、フォーラム初日の11月12日、全体集会のあと、会場移動をかね、子どもの権利条約フォーラムを開催していることや子どもの権利条約の存在をひろく市民に知っていただくため、広島市内の中心部をパレードすることを計画した。

2.2 子どもの権利条約との関連

子どもの権利条約42条。「締約国は、適當かつ積極的な方法でこの条約の原則及び規定を成人及び子どものいずれにも広く知らせることを約束する。」

子どもの権利条約の広報は、国の義務であるが、国民の義務であるとも言える。あらゆる機会をとらえて、子どもの権利条約を、おとなにも子どもにも伝えることは、国民ひとりひとりの義務であり、今回のパレードはその実践としての意義があると考えた。

2.3 当日の分科会の状況と分科会を通して得られた知見

当日は、全体集会に参加した約100名が、パレードに参加した。すがすがしい秋の午後、平和公園を横切って、本通りのアンデルセンまで、子どもたちを先頭に、約2キロをパレードして、道行く人々に、子どもの権利条約フォーラムの開催と子どもの権利条約の存在をアピールした。2部構成で進行。前半の司会進行は小林(広私教、崇徳教員)。参加者紹介、基調提案の後、崇徳高校の卒業生、岡山、広島の高校生がそれぞれの取り組みや想いを報告した。

2.4 今後の課題、活動方針

子どもの権利条約バースデー・パレードは2011年にはじめて広島市内で行った。今回はその2回目である。今後も、継続して行って行く予定である。

初回は、多数の音楽関係者に参加いただき、トランペット隊に先導してもらうという、派手なパレードであった。今回はトランペット隊に参加いただけなかったのが残念だった。

今後は、準備を早めに始め、音楽演奏者と十分な参加者を確保して、子どもの権利条約を道行く市民に知りていただけるよう、工夫をしたい。



3. 子ども交流会

3.1 テーマおよびねらい

全国から集まった約50名の子どもたちに短い時間の中でも広島らしい手作りのものでなしをし、子どもたちが他の地域から参加している2名以上の友だちを作れるような場を設置し、子どもたちが自分を自分らしく表現し、今後のつながりのきっかけとなる交流会にするよう企画・運営を行った。

3.2 子どもの権利条約との関連

自己紹介のための「4つの窓」や名札作りのワークショップを通して、自尊・他尊の気持ちを表現し、その場に集った参加者全員が出し物やそれぞれの地域の紹介などをしっかりと見聞きし、心から楽しく参加できたように感じられ、自己表現が充分でき、全員で交流会 자체を盛り上げることができた。

3.3 当日の分科会の状況と分科会を通して得られた知見

広島らしいおもてなしをしたいという気持ちで、広島の子ども、学生、大人が会場の飾り付けや料理すべてを手作りで行い、明るく暖かな会場を作ることができた。

交流会では、スタッフを含め約80名が自己紹介や名札づくりワークショップを通して、できるだけ多くの参加者とふれあい、和やかな雰囲気の中で、広島の子どもたちによる「ええじゅん踊り」や歌の披露、それぞれのお国自慢コーナーなどで、交流を深め、お好み焼き体験などで広島をさらに体験し、クリスマスツリー争奪ジャンケン大会で大いに盛り上がることができた。

最後は、本当に短い時間で、全員で会場の片づけ・撤収を行い、1時間半前までは知らない者同士であった参加者がこの交流会を通して、多くの人の手と心がこもっている交流会であることを感じ、すべての子どもたちが積極的に動く力を発揮することができた。



3.4 今後の課題、活動方針

子ども交流会の企画を早めに立て、企画の段階からより多くの子どもたちが参加できるように呼びかけを行い、企画・会場設営なども子どもの参加があればよいと思う。また、今回の交流会の様子を多くの大人の参加者の方にも見ていただきたかった。



4. おとな交流会

さまざまな領域で、日々、子どもたちとかかわっている大人たちが、一堂に会する本フォーラムという場を活かし、連携の輪を広げるべく、ゆっくりと食事をしながら交流を深めるために企画された。

アンデルセンは、広島をはじめとして全国でも親しまれているベーカリーショップであるが、「広島アンデルセン」は本店であり、人通りのたえない広島市の本通商店街に位置している。原爆投下20年前の1925年、三井銀行広島支店として新築されたこの建物は、天窓から外光が差し込む吹き抜けの周囲に中2階の回廊がある、ルネッサンス様式の美しい建物である（アンデルセン HPより）。フォーラム開催地である広島、とりわけ被爆地としての広島を、全国の方々に知っていただくために、おとな交流会の会場として選定された。

おいしい料理と少し（？）のお酒とともに、子どもの権利について考えている仲間による談笑の輪があちこちに咲いたひとときであった。参加者ひとりひとりが自己紹介をしていくなかでは、歴代の実行委員や事務局長らによる、過年度のフォーラムの状況なども聞くことができ、たいへん興味深い内容であった。

また、アンデルセンの副店長である畠山氏による「被爆建物としてのアンデルセン」の来歴も伺うことができた。



5. 全体会

渡部委員長の開会の辞にはじまり、各分科会参加者からの分科会をやってみた感想、参加してみた感想などを聞きながら、フォーラムの全体像を振り返った。

フォーラムの呼びかけ人である「子どもの権利条約ネットワーク」代表の喜田明人氏（早稲田大学教授）や、同副代表で、これまでのすべてのフォーラムに参加しておられる荒牧重人氏（山梨学院大学教授）にも感想をうかがったところ、「大成功である」との太鼓判をいただいた。

2日目の15時という遅い時間の開会であったが、最終的に65名の参加となった。次回開催地の愛知の代表の方へのバトンも渡すことができ、無事「子どもの権利条約フォーラム 2011 in 広島」に幕がおろされた。

